［認知症対応型共同生活介護用］

# 1.　評価結果概要表

作成日　平成19年　9月11日

## 【評価実施概要】

| | |
|---|---|
| 事業所番号 | ０８７０１０１６２３ |
| 法人名 | 株式会社　メデカジャパン |
| 事業所名 | 水戸ケアセンターそよ風 |
| 所在地<br>（電話番号） | 茨城県水戸市見和1－298－9<br>（電　話）029－309－1281 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人　認知症ケア研究所 | | |
| 所在地 | 茨城県取手市井野台4－9－3　D101 | | |
| 訪問調査日 | 平成19年7月11日 | 評価確定日 | 平成19年12月18日 |

## 【情報提供票より】（平成19年6月27日事業所記入）

（1）組織概要

| | | |
|---|---|---|
| 開設年月日 | 平成　15　年　7　月　1　日 | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計　18　人 |
| 職員数 | 14　人 | 常勤　12人，非常勤 2人，常勤換算 12．5人 |

（2）建物概要

| | | |
|---|---|---|
| 建物形態 | 併設 | 新築 |
| 建物構造 | 鉄骨　造り | |
| | 2 階建ての　2 階部分 | |

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 家賃（平均月額） | 60,000　円 | | その他の経費（月額） | 25,000　円 |
| 敷　金 | 有（　120,000　円） | | | |
| 保証金の有無<br>（入居一時金含む） | 有（　200,000　円） | | 有りの場合<br>償却の有無 | 有(期間：4年) |
| 食材料費 | 朝食 | 450　円 | 昼食 | 500　円 |
| | 夕食 | 450　円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり | 円 | | |

（4）利用者の概要

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 利用者人数 | | 18 名 | 男性 | 3 名 | 女性　15 名 |
| 要介護1 | | 3　名 | 要介護2 | 7　名 | |
| 要介護3 | | 3　名 | 要介護4 | 5　名 | |
| 要介護5 | | 0　名 | 要支援2 | 0　名 | |
| 年齢 | 平均 | 80.2 歳 | 最低 | 67 歳 | 最高　91 歳 |

（5）協力医療機関

| | |
|---|---|
| 協力医療機関名 | 田口同仁クリニック　・　榊歯科医院 |

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地の中の閑静な住宅街に、通所介護と併設して建てられたホームである。そのため日々の買い物や散歩など、利用者が屋外で過ごす時間も多くもたれている。管理者及び職員は、認知症ケアの取り組みに熱心で、利用者の毎日の生活をやさしく笑顔で見守る姿勢ができている。職員同士の意見交換の場も定期的にあるため、ユニットを越えてホーム全体で利用者の生活を支援していく意識が職員全体に根付いている。利用者の元気な笑顔がとても印象的な、朗らかな雰囲気があるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

**重点項目①**

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の外部評価の結果は職員間で話し合われ、建物の構造上やむを得ない玄関周りを、自宅の雰囲気に近づけようと努力している様子が窺えた。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価は職員個別に記入し、それを会議の席で取りまとめる方法で行なっている。その結果、新たな自己の課題や気づき・学びを得ることができている。

**重点項目②**

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議では、毎月の行事予定のほかにホームで行なわれている活動が紹介され、近隣住民にホームの機能や役割を知ってもらう活動を行なっている。

**重点項目③**

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

年2回の家族会を企画し、家族から多くの意見を出していただけるよう取り組んでいる。また、そこでの話し合いの記録をもとに、職員会議の議題としている。

**重点項目④**

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

近隣住民や民生委員のほかに、数メートル離れたところにある訪問介護事業所（他法人）とも連携を図り、ホームをより多くの人たちに知ってもらうことと同時に、サービスの質の向上を目指している。

# 2.　評 価 結 果（詳 細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ．理念に基づく運営** | | | | | |
| 1．理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念<br><br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「その人らしく生き生きと」を理念に掲げ、管理者・職員とも理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み<br><br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 法人全体の理念である「そよ風憲章」を、職員全体で解釈しやすいよう現在の理念をつくり出しているため、管理者・職員とも理念の共有が図れている。 | | |
| 2．地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい<br><br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 近隣在住の職員や民生委員の協力を得て、地域のイベントや行事に参加をしている。 | | |
| 3．理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用<br><br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価は職員が個別に行い、全体を集約する形で行ったため、業務の反省点や新たな気づきを得ることができている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み<br><br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 近隣住民や利用者家族、さらに利用者代表などの会議メンバーを構成している。常に活発な意見交換が行なえるよう会議運営に配慮している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 9 | ○市町村との連携<br><br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市町村との連携を密に図り、いつでも相談に行けることでサービスの質の確保に努めている。 | | |
| ４．理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告<br><br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 「そよ風便り」という名称の広報誌を制作し、月間報告と一緒に送付している。 | | ホーム運営の中核的職員の異動について、家族に報告を行い、家族の不安感が払拭される取り組みに期待したい。 |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br><br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関先には「苦情箱」を設置し、それ以外に年2回の頻度で家族会を開催し、広く意見を求める体制ができている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br><br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 馴染みの職員が職場を離れずに済むよう取り組まれている。万一、離職される職員がいるときは、業務引き継ぎと同時に利用者への挨拶を行なっている。 | | 利用者へと同様、離れて住む家族に対しても報告を行なうことで、より信頼感が高まると思われる。 |
| ５．人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み<br><br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 社内・社外ともに研修には参加できるよう、職員の勤務を調整して取り組んでいる。また、研修の報告も他の職員に分かる形でなされている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br><br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 現在のところ同一法人内での連携は図れているが、その他の同業者との連携までには至っていない。 | ○ | 市役所などへ働きかけ、同一保険者内での同業者との連携が図れるよう、今後の取り組みが期待される。 |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br><br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | ホーム内の見学は随時可能であり、体験入居などをとおして本人が納得して利用できるよう配慮されている。 | | |
| 2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br><br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は利用者を第一に考え日々の介護を行なっているが、共に学ぶ姿勢については職員の個人差がある。 | ○ | すべての職員が利用者から学ぶ姿勢で取り組むことが期待される。 |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 1．一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握<br><br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | センター方式アセスメントシートを用いて利用者の思いに触れようと努めているが、シートの記載が十分ではなかった。 | ○ | 日々の会話の中から得た情報をアセスメントシートに記入し、全職員が把握できることで、より利用者の生活の質が向上されると思われる。 |
| 2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br><br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している | 「その人らしく生き生きと」の理念のもと、職員で話し合い個別的な介護計画が作成されている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br><br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | カンファレンスは行なっており、その記録も残されているが、記述が簡素化されておりまた開催時期も不定期であった。 | ○ | モニタリングシートの書式を整備し、特に変化がなくとも3ヶ月に1度を目安に開催することが望ましい。 |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| ３．多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br><br>本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 家族の状況に応じて、通院付き添いなどの援助を行なっている。 | | |
| ４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br><br>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医院の医師の訪問診療のほかに、看護師の訪問もあるため連携は密に図れている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br><br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 現在のところ対象となる方がいないため、今後の方針について決定されていない。 | ○ | 今後、利用者の重度化を視野に入れ職員全体で話し合うことが望ましい。 |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**<br>１．その人らしい暮らしの支援<br>（1）一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br><br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 丁寧で伝わりやすい言葉かけを職員は行なっており、違和感なく介護動作に移行することができている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br><br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床から就寝まで利用者のペースを尊重した生活リズムができている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| （2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br><br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の能力に応じて、調理から下膳の流れに加わっていただけるよう配慮されている。食事中は、職員はその介助を行うため、共に食事を取ることができない状態である。 | ○ | できる限り職員が利用者と共に食事を取れるよう、時間帯などの調整を職員間で話し合うことが期待される。 |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br><br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | おおむね入浴時間は固定化しつつあるが、原則として何時であっても入浴は可能となっている。 | | |
| （3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br><br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者が自発的に活動できるよう、職員はさりげなくその活動を促している。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援<br><br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 日々の散歩やドライブなどの行事を通して、利用者が引きこもらないよう取り組んでいる。 | | |
| （4）安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 建物の構造上、1階へ降りる階段への扉は安全配慮上施錠されているが、利用者はエレベーターを使用することができる。その他施錠されている箇所はなかった。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策<br><br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 運営推進会議などを通して地域住民へ働きかけ、有事の際の協力体制がとられている他、ホームでも消防署の協力の下災害訓練を行なっている。 | | 災害時に地域の救援拠点として、ホームが活躍できるよう日頃から食糧や備品など備蓄を確保しておくことが望ましい。 |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| （5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br><br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取状況や水分摂取量の確認がされた記載があり、詳細に状態変化が把握できるようになっている。 | | |
| 2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり<br>（1）居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br><br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家庭的な雰囲気を大切にしたインテリアで、季節感も大事にしているのが窺えた。 | | リビングの光量について、職員間で話し合い工夫できる点について検討することに期待したい。 |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br><br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者は思い思いの物品を持ち込んで、その人らしさが感じられる居室空間となっている。 | | 利用者によって物品持ち込みの差が感じられるため、今後も家族等への呼びかけに期待したい。 |